

下富安遺跡発掘調査概報

1977.3

和歌山県文化財研究会

目 次

序

例 言

I. 位置と環境	1
II. 調査と経過	2
1. 遺構	2
2. 遺物	5
III. まとめ	6
図版1. 遺構全体図(1)	7
* 2. * (2)	8
* 3. * (3)	9
* 4. 出土遺物	10
* 5. 造跡遠景・遺構	11
* 6. 遺構	12
* 7. *	13
* 8. *	14
* 9. *	15
* 10. 出土遺物	16

序

和歌山県の中央部に位置する御坊市は、日高地方の経済・文化等の中心地帯として、又、紀北・紀南の接点として重要な位置を占めております。歴史学の分野におきましても、古代より種々の遺跡・文献史料が存在し、又、紀州の文化を代表する熊野三山への道筋にもあたるところです。

このたび、御坊市内を流れる斎川の河川改修工事が実施され、工事中、弥生土器等が発見されました。県教育委員会は、遺跡の破壊に先き立ち、関係機関と協議のすえ発掘調査を実施することになり、社団法人和歌山県文化財研究会が受託のうえ行ないました。

その結果、弥生時代中期より中世に至る種々の遺構及び遺物が確認され、この地方にとってかなり貴重な資料を得ることができました。ここに、発掘調査の成果の概要を報告し、一般の活用に資したいと存じます。

最後に、発掘調査にあたり、ご援助とご協力を賜りました関係各方面の方々に深く感謝の意を表し、厚くお礼を申しあげます。

昭和52年3月25日

社団法人和歌山県
文化財研究会々長

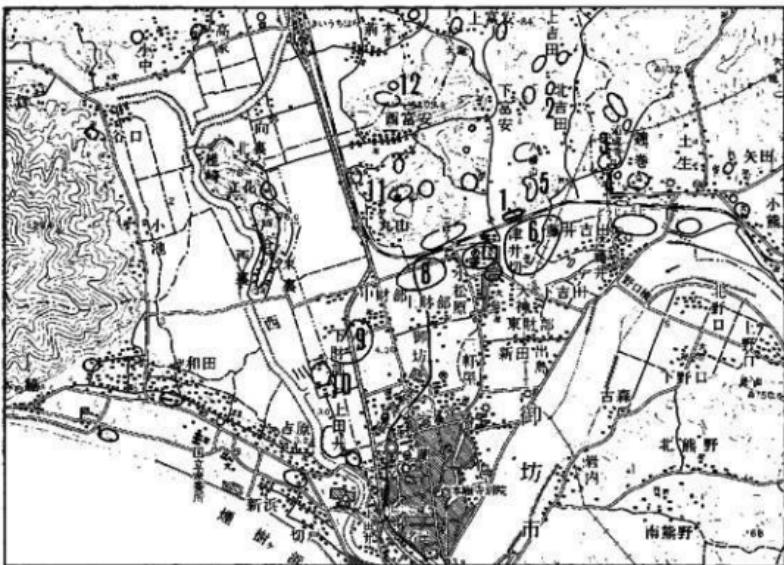
和 中 金 助

例　　言

1. この概報は、御坊市下富安地区内災害関連工事に関する埋蔵文化財発掘調査の概報である。
2. 発掘調査は、和歌山県文化財研究会が、県教育委員会の指導を受けて、昭和52年1月20日から3月8日まで実施した。
3. この調査に、仏教大学生大沼芳幸（2回）三宅弘（2回生）が参加し遺構検出及び遺物整理にあたった。
4. この調査にあたって、和歌山県文化財研究会御坊支部及び地元関係各位に種々のご協力・ご教示をたまわり、ここに感謝の意を表する。
5. この概報中、遺物の項で遺物番号とあるのは、図版4・10の遺物番号と共通である。
6. 本書の執筆及び編集は永光寛が行った。
7. 工事中遺物を発見し、一時工事を中止して発掘に種々ご協力いただいた御坊市の株式会社谷口組に対し感謝の意を表します。

調　　査　組　織

調　　査　委　員	小野山 節	(和歌山県文化財保護審議会委員)
	糸廣 正信	〃
	巽 二郎	〃
	藤沢 一夫	〃
	高垣 俊雄	(御坊市教育長)
	寺西 義一	(御坊市文化財保護審議会々長)
	相中 金助	(和歌山県文化財研究会々長)
	小山 豊	(　　〃 理事)
	井上 玉	(県教育委員会文化財課々長)
	龍田 義夫	(日高地方教育事務所々長)
事　務　局　長	海野 正幸	(和歌山県文化財研究会事務局長)
事務局次長	畠中 要一	(県教育委員会文化財課主幹)
事務局幹事	水野 四郎	(　　〃 調査員)
	小質 直樹	(　　〃 第2係長)
	西田 義次	(御坊市社会教育課々長)
調　　査　主　任	永光 寛	(県教育委員会文化財課技師)
調　　査　員	吉山 実夫 笠井 保夫 松田 正昭	
	桃野 真晃 上田 秀夫	(県文化財課技師)
副調査員	高加見泰彦 武内 雅人 宇野 慎敏	
	西岡 盛	(文化財研究会副調査員)
	水原 尚子	(県立田辺工業高校非常勤講師)



位置図 (1 : 25000)

- 1. 下富安遺跡 2. 阪東丘古墳群 3. 道成寺遺跡 4. 鐙巻銅鐸出土地
- 5. 八幡山古墳群 6. 津井切遺跡 7. 小松原Ⅱ遺跡 8. 蛭田坪遺跡
- 9. 堅田遺跡 10. 田井遺跡 11. 亀山銅鐸出土地 12. 向山銅鐸出土地

I. 位置と環境

和歌山県御坊市に所在する下富安遺跡は、日高川の堆積作用によって形成された御坊平野の北方に位置する（海拔約6.5m）。東および北は八幡山、西は富安川、南は斎川によってさえぎられている。斎川は、現在紀勢本線の北側に沿って西流しているが、もとは、やや南側を行っていた。昭和初期鉄道が開通するのと前後して現在のようにつけかえられた。

弥生時代中期後葉から中世にいたる遺構を検出した本遺跡の周辺遺跡は、第1回のとおりであるが、中でも縄文時代後期末の宮内式土器を出土する田井遺跡（10）・弥生時代前期（古墳時代）の蛭田坪遺跡（8）・弥生時代中期より始る小松原Ⅱ遺跡（7）・同後期より出現する堅田遺跡（9）等は、本遺跡の開始と相前後しており、またともに旧日高川の自然堤防上に立地している。

この付近は、銅鐸の出土地としてもよく知られた地域で、向山（12）に2点、亀山（11）3点、鐘巻（4）1点、他に出土地点が不明確であるが、本遺跡の南方から1点出土している。銅鐸の發

見は多分に偶然性が伴うとはいえるこの地方の弥生時代を考えていくうえで、かなり貴重な資料であろう。

古墳時代に入ると各地に古墳が築造されるようになるが、この付近でもまた数多くの群集墳が営まれた。中でも本遺跡に隣接する八幡山古墳群（5）は6世紀代の群集墳で下富安遺跡が、同時代の造構を検出していることから考えて今後両者の関係を究明する必要があるだろう。

安珍・清姫で有名な道成寺（2）もこの付近にあり境内から奈良時代の瓦等が出土している。

このように本遺跡周辺は、各時代の遺跡が密集した地帯であり、日高郡内においても中心地として考えられるところである。

II. 調査と経過

和歌山県土木部は、昭和51年度災害関連事業として御坊市下富安地区内斎川の河川改修工事を実施した。昭和51年12月同河川改修中に業者より遺物の発見が御坊市教育委員会を通じて県教育委員会に伝えられた。遺物の発見場所は、国鉄御坊駅より紀勢本線に沿って東へ約500mの地点で斎川の左岸、出土遺物は弥生土器及び須恵器等であった。

県教育委員会は、県上木部その他関係機関と協議のうえ、一時工事を停止して発掘調査を実施することになった。

調査は、斎川の北岸工事予定地東西約240m巾約2m面積約480m²を対象に全面発掘した。調査地区的割り付けは、工事用の地区杭柱5から617をみるとおした軸より直角に9m北方に調査用基準杭をもうけ、それより東（工事用柱5～17の軸に平行）へ大きく20mごとに杭を打ち、A～Lまでの地区を設定し、又、小さくは、各地区を2m方眼にわりつけた。

調査地区的基本的層序は、第1層が斎川つけかえ時（昭和初年）の堆土 第2層旧水田耕作土 第3層暗紫色粘質土（遺物包含層）第4層黄褐色粘質土（遺構検出面）である。

発掘は、第1層・第2層が、機械（業者負担）による堆土作業、その後は手掘りによる発掘作業を行った。以下第4層（遺構検出面）において検出された各遺構を列挙してみる。

1. 遺構

検出した遺構は、竪穴式住居跡19棟、溝状遺構33条、不明遺構27、他にピット多数であるが、各遺構は、調査区が巾約2mなので完掘したものはほとんどない。（岡版一～三参照）調査区のはず東半分においては、耕作土直下に遺構を検出できるが、西半分の地区は約0.1～0.2mの遺物包含層の下層（黄褐色粘質土一地山）において検出。

竪穴式住居跡（SB）

19棟を検出しているが、他に不明遺構として処理したものの中に何棟か存在する可能性もある。

SB-1 潛丸方形の住居跡か。東西約6.4m深さ約0.2m。周溝（一部において途切れるところがある）を有する。床面において弥生土器（畿内第5様式）出土。

S B-2 円形の住居跡。径5.6m以上、深さ約0.35m。周溝を有する。床面において弥生土器（畿内第4様式か）出土。この住居跡は、S B-1の中にはまり込んだ状態で検出したが、S B-2が埋った段階でS B-1がその上に作られたと考えられる。中央部付近に焼土検出。

S B-3 方形の住居跡。東西辺4.1m以上。深さ約0.4m。周溝は認められない。土師器出土。5世紀前半か。

S B-4 方形の住居跡。東西辺3.3m以上。深さ約0.18m。周溝は認められない。

S B-5 方形の住居跡。東西辺約3.7m。深さ約0.35m。周溝は認められない。住居内や西偏して巾約0.1mの小溝（S D-12）がめぐる。なお、東偏したところの円形ピット付近に焼土。東壁は、溝（S D-13）によってきかれている。出土遺物は土師器のみ。

S B-6 方形の住居跡か。東西辺約4.2m。深さ約0.25m。周溝を有する。住居跡に伴うピットは3穴であるが、ともに方形の掘方をもっている。

S B-7 方形の住居跡。東西辺約3.2m。深さ約0.5m。周溝を有する。なお、S B-7・S B-6およびS D-14の切合い関係は、S B-7が古く（須恵器は出土しない）。次にS B-6最後にS D-14の順であり、S D-14には6世紀代の須恵器が伴う。

S B-8 方形の住居跡。東西約4.9m。深さ約0.3m。周溝は認められない。

S B-9 方形の住居跡か。東西約3.9m。深さ約0.2m。周溝は認められない。なお、この住居内にある他の遺構との切合い関係であるが、溝（S D-19・20）2条はともに、古くついでS B-9最後に不明遺構（S Z-10）の順になる。

S B-10 方形の住居跡と考えられる。

S B-11 方形の住居跡か。東西約3.6m。深さ約0.2m。周溝は認められない。S B-10よりも新しい。この住居西壁には、接する溝（S D-21）は新しい。

S B-12 方形の住居跡。東西4.7m以上。深さ約0.35m。周溝は西壁下にみとめられる。東壁はS B-13によって切られている。

S B-13 方形の住居跡か。東西約4.5m。深さ約0.2m。周溝は認められない。この住居内に南北に平行して2条の溝（S D-22・23）を検出したが、ともに住居跡よりも新しい。

S B-14 方形の住居跡。東西辺5.7m以上。深さ約0.35m。周溝は認められない。火災の痕跡あり焼土、炭化物出土。遺物は土師・須恵器片。

S B-15 方形の住居跡か。東西約5.5m。この住居跡は不明遺構（S Z-13・14）および溝（S D-24）よりも古い。中央部付近には炉址と考えられるものがある。

S B-16 方形の住居跡。深さ約0.1m。周溝を有する。

S B-17 方形の住居跡。東西約4.1m。深さ約0.1m。西壁下において巾の広い（約0.2~0.3m）周溝がある。

S B-18 方形の住居跡。東西辺約2.9m。深さ約0.35m。周溝を有する。なお、この住居跡は火災にあっており丸太状・板状の炭化材および住居内一面に焼土を検出。遺物は土師・須恵器片。

S B-19 円形の住居跡。推定径約4.1m。深さ約0.38m。周溝を有するが一部において途切れている。中央部に炉址あり、なお覆土において弥生土器片（畿内第4様式）が出土。

溝状遺構 (S D)

弥生時代中期後葉から中世初期に至るまでの溝状遺構33条を検出。

S D - 4 長さ3.5m以上。巾約1.0m。深さ約0.35m。覆土より弥生土器・土師器・須恵器片出土。
溝断面はU字を呈する。

S D - 5 巾約0.7m。深さ約0.3m。S D - 4 に切られた状態で検出。出土遺物は弥生土器回線文
を主体とした畿内第4様式。

S D - 6 巾約0.7m。深さ約0.2m。覆土において須恵器片出土。

S D - 11 巾約1.6m。深さ約1.1m。本遺跡で検出した最大の溝である。断面はU字を呈し出土遺
物は弥生土器畿内第4様式、および石鐵・サヌカイト片である。

S D - 13 巾約0.7m。深さ約0.65m。S B - 5 よりも新しい。

S D - 15・16 この2条の溝は同一のものと考えられ S D - 15が堆積したのちの最終段階での溝が
S D - 16である。

S D - 18 S B - 9 の西辺に平行した溝で、巾約0.6m。深さ約0.25m。覆土より土師器出土。

S D - 19 S B - 9 に先行する溝で半径約3mの弧状を呈するようであるが全様は明らかでない。
遺物は覆土より石製紡錘車（図版10-9）出土。

S D - 22 巾約1.2m。深さ約0.7m。覆土は上層に暗紫色粘質土、下層に暗青灰色粘質土が堆積し
ており底近くには礫が若干みられた。遺物は中世初期の瓦器等出土。

S D - 23 巾約1.4m以上。深さ1m以上。上層位は11層に分かれ。出土遺物は下層において弥生
土器片、上層において黒色土器（図版4-30参照）

S D - 28 巾約1.3m、深さ約0.25m。土層位は上層で暗茶褐色、下層で明茶褐色粘質土の2層に分
れ遺物は弥生土器畿内第4様式が多い。

不明遺構 (S Z)

調査対象地の関係上遺構の全様を明らかにするものはピット以外ではなく、遺構の一部を検出して、
住居跡・溝状遺構と判断できるもの以外はすべて不明遺構とした。

S Z - 3 長径1.6m。短径1.3m。深さ約0.65m。だ円形のプランをもつ掘り込み、遺構底部で須
恵器壺（図版第四・24）、上層で同じく須恵器壺（図版第四・26）が出土。

S Z - 13 東西約2.2m。深さ約0.25m。隅丸形のプランをもち、底は平坦でなく中央部と考えられ
る部分に最深部がある。

S Z - 14 東西約1.9m。S Z - 13と近似したプランをもち、この遺構からは底部に接して須恵器短
頸壺が出土。

S Z - 19 短径約0.9m。長径2m以上。深さ約0.85m。土層は4つに分層され最下層（第4層）は
青灰色粘質土が堆積。第1層には製塙土器かと考えられる粗製の土師器が、あたかも廃棄されかの
ように出土。ただ製塙土器であるか否かは一考を要する。他に出土遺物は土師器・須恵器・土鍾等
である。

S Z-24 南北0.3m以上。東西1.8m以上。深さ約0.2m。周溝を確認できなかったが、おそらく住居跡としての可能性がある。

2. 遺物

出土遺物は、その大部分が土器類で他に石器（石鎌・石斧）、石製品（紡錘車）、土製品（土鍤）等があり木器関係の出土はなかった。

土器出土量の割合は、土師器が多く須恵器・弥生土器の順になり黒色土器・瓦器・土師質土器・青磁片も少量出土している。弥生土器は、その大半が畿内第4・5様式であるがなかにごく少量の第3様式と考えられるものも出土している。

壺（遺物番号17）S Z-11出土。頸部以上は欠損、最大径は体部のほぼ中位にあり算盤玉状をなす。胎土は比較的緻密であるが器壁の外面は剥離がはなはだしく文様その他は観察しにくい。ただ断片的には体部の上位に何条かの櫛描直線文がめぐり、最後に一条の櫛描波状文で終わっている。黒斑は2ヶ所。

無頸壺（遺物番号18）SD-11出土。下半分は欠損。口縁端部は平坦面を有し、口縁部は外方に肥厚し段状をなす。その段状の下端近くに2孔を一对として小孔がみられる。器壁内面は剥離しているが外面は丁寧なヘラ磨きを施す。

小型鉢（遺物番号19）包含層出土。内外面ともに器壁剝離のため調整は不明。底部を有す。

小型鉢？（遺物番号20）包含層出土。内外面ともに器壁剝離、底部は丸底。

須恵器蓋（遺物番号21）S Z-19を切るピットより出土。天井部と口縁部とをわける突出部の棱はほとんどなく凹線を代りにめぐらす。天井部は外面に平行のたたき目を、内面には同心円状のたたき目を施す。外面のたたき目はヘラ削りの前に、内面のたたき目はナデ調整後にそれぞれ施す。

須恵器坏（遺物番号22）包含層出土。たちあがりに面はなく丸くおさめられ受部とたちあがりの間に凹線がめぐる。

須恵器蓋（遺物番号23）S Z-16出土。やや偏平の宝珠形つまみがつき、天井部のや、ふくらんだところにヘラ削りを施す。口縁部内面にかえりを有する。

須恵器坏（遺物番号24）S Z-3出土。口縁部は外傾し底部に粘土紐まきあげの継ぎ目がラセン状に残る。

土師器蓋（遺物番号25）S Z-19出土。偏平の宝珠形つまみがつき、口縁端部は丸くおさめ内面に浅い凹線がめぐる。

須恵器坏（遺物番号26）S Z-3出土。脚端面はやや外方にむく。

須恵器短頸壺（遺物番号27）S Z-14短く上方にたちあがる口縁部は、端部において丸くおさめ肩部から体部にかけては丸味をもち体部には丁寧なヘラ削り調整が施される。高台はやや外方につまみ出される。

土師器壺（遺物番号28）S Z-3出土。砂粒を多く含む胎土をもつ。や、長削で最大径は体部にある。

土師器壺（遺物番号29）S D-23出土。内外面ともにナデ調整、口縁部はや、厚く端部は丸い。

黒色土器腕（遺物番号30）S D-23出土。内外面ともに炭素の付着がある。

瓦器皿（遺物番号31）包含層出土。たちあがり及び内面にナデ調整を施す。内面においてスヌの付着を認める。灯明皿として使用か。

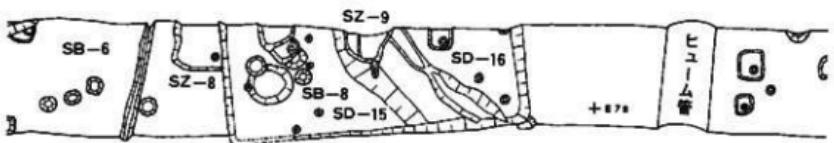
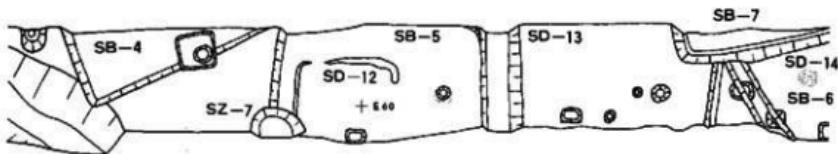
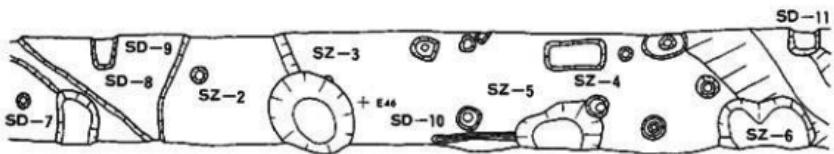
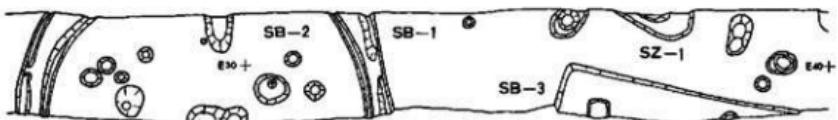
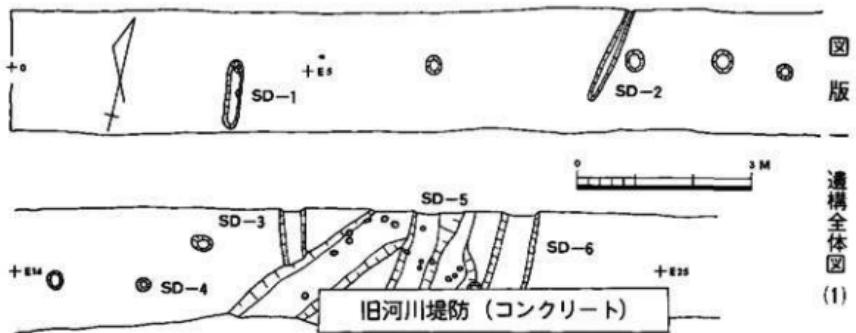
III ま　と　め

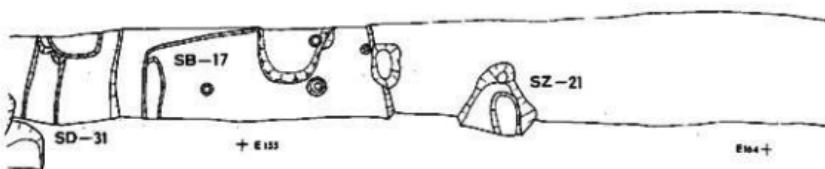
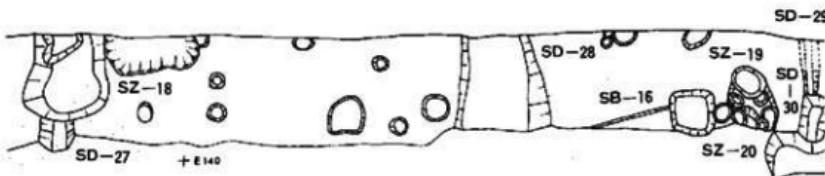
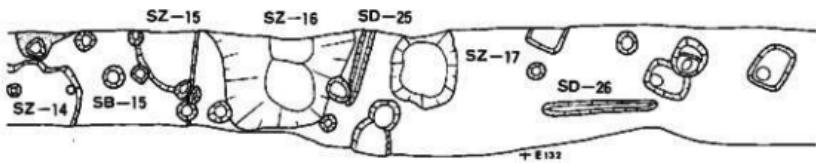
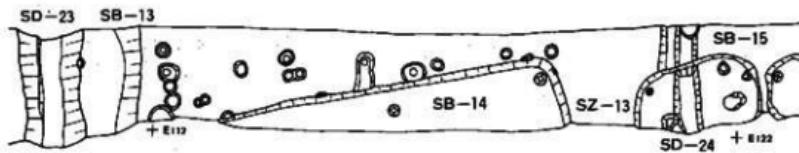
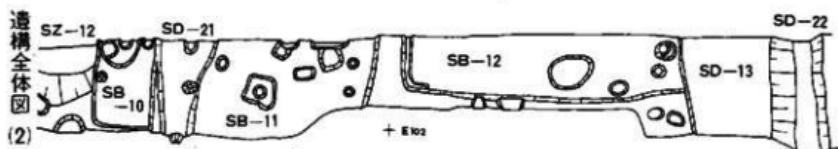
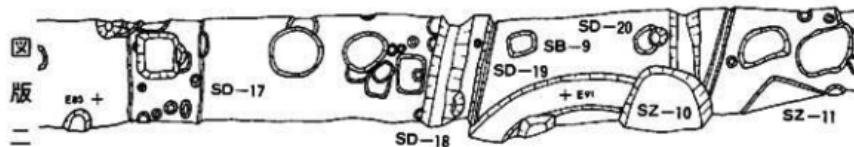
八幡山の南下に展開する本遺跡は、約480 m²の調査地区より竪穴住居跡19・溝状造構33・不明造構27・ピット等多数の遺構を検出し、弥生土器・土師器・須恵器・黑色土器・瓦器その他の遺物が出土した。

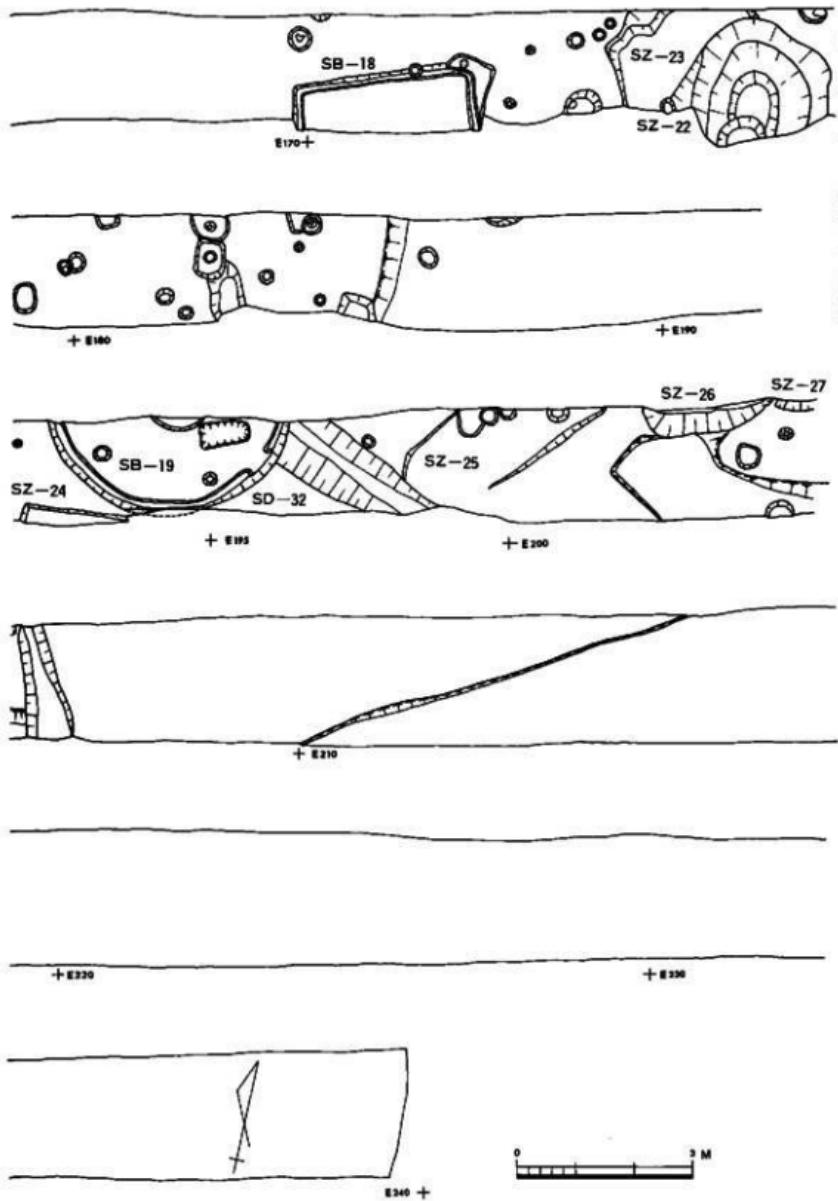
調査地区に関する限り弥生中期より中世初頭に至るまでの生活が営まれた集落地であったと考えられる。

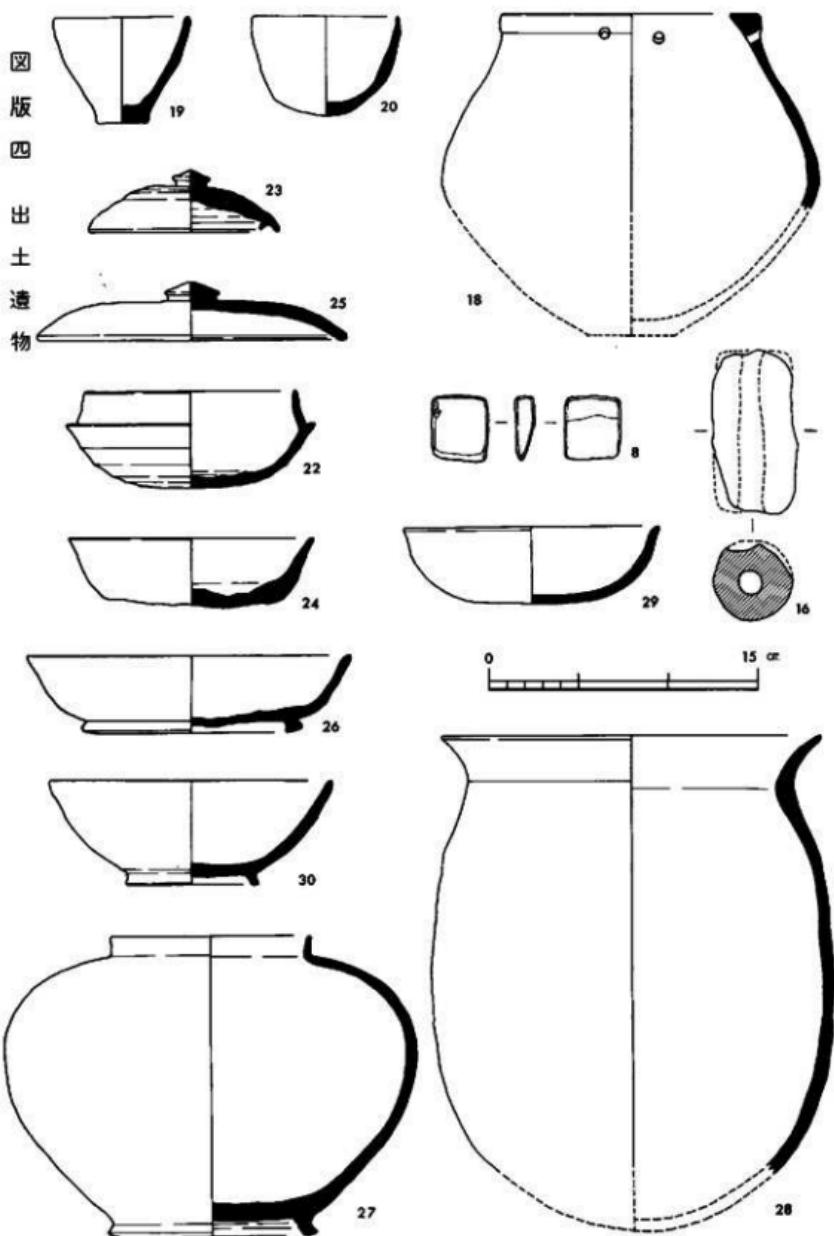
ただ今回の調査の性格上、本遺跡の範囲を確認するにいたらず集落内にどのような遺構が展開するかという基本的な内容は皆無といわなければならない、又調査地区的巾が約2 mというトレンチ掘りと意を同じくするものであったので大部分の遺構に関してその全様を窺い知ることはできなかった。

近い将来においてこの地域が開発される可能性が大きく、その以前において本遺跡の徹底的な調査の必要性があり、又同時にこの調査で得られた資料を詳細にわたって整理・検討しなければならないと考える。



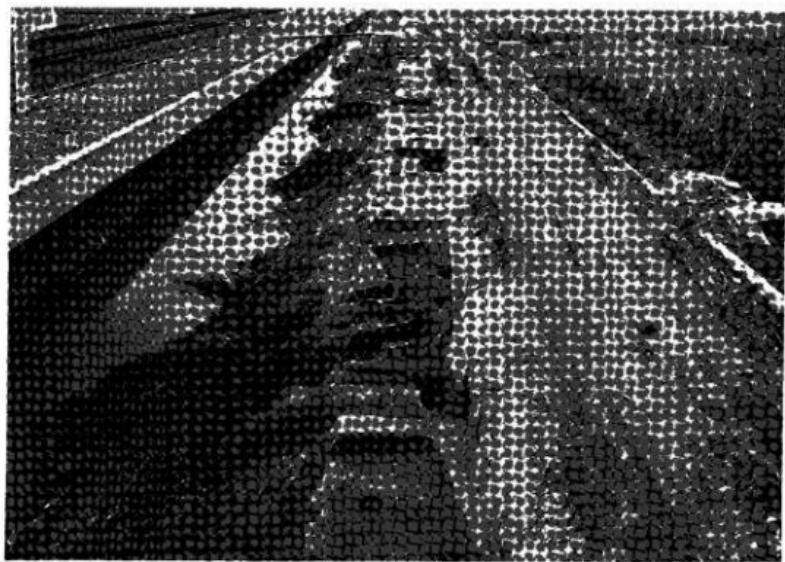




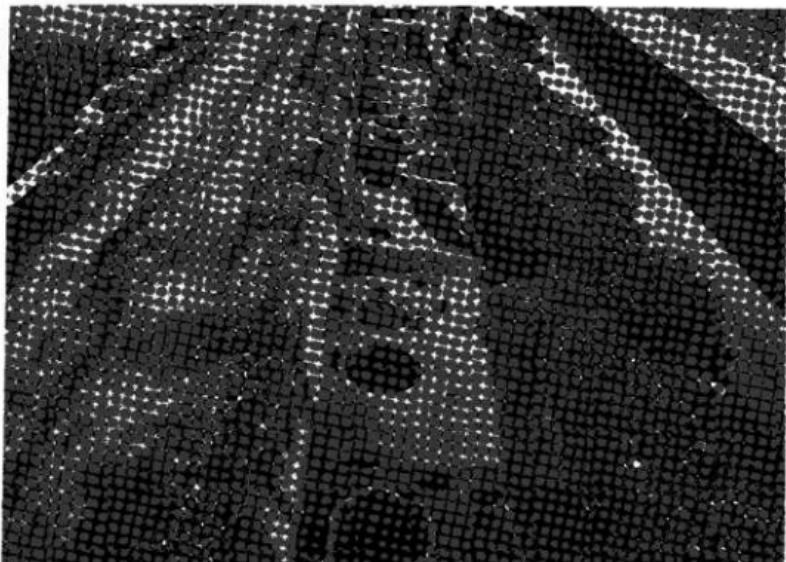




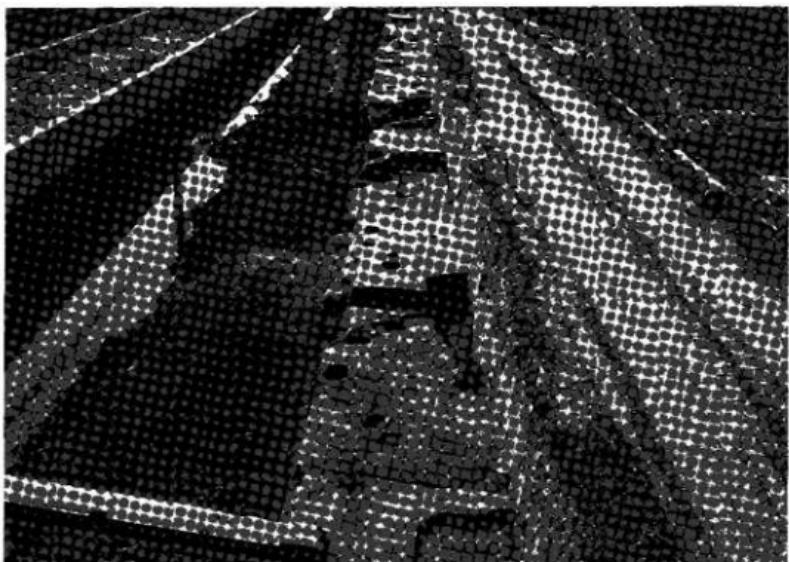
1. 遺跡遠景（北西から）



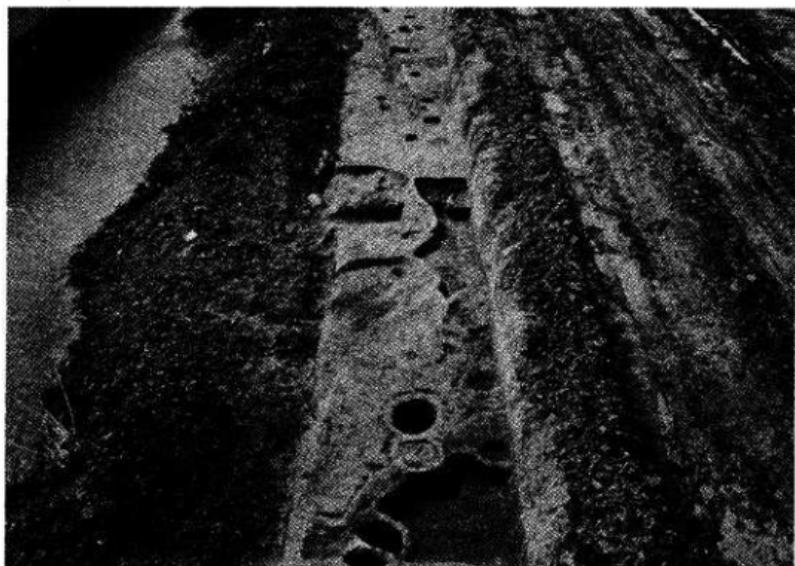
2. SB-14~SB17付近（東から）



1. SB-9付近（西から）



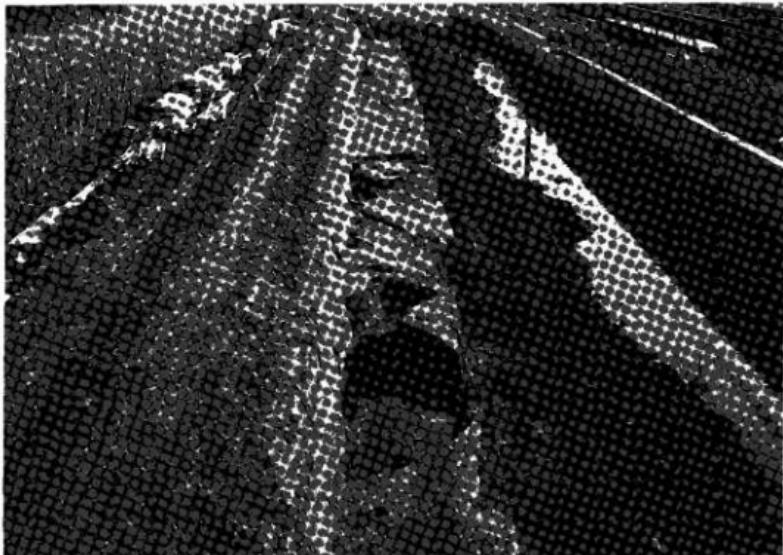
2. SB-1～SB-6付近（東から）



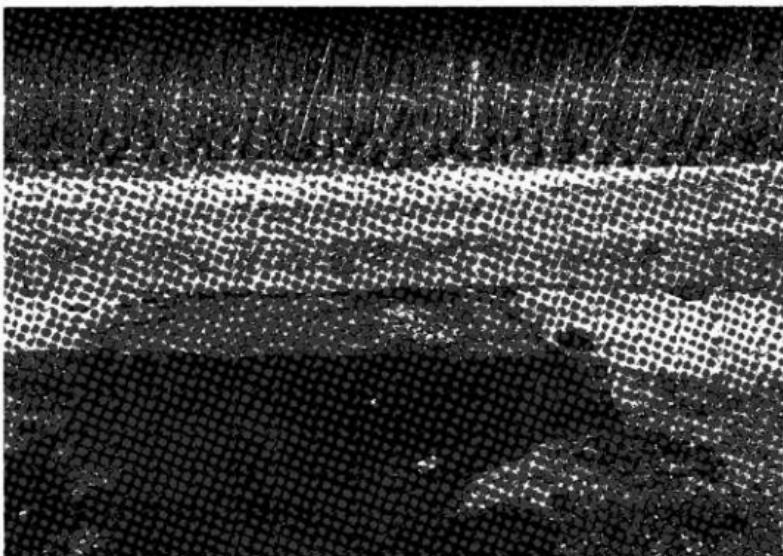
1. SB-14・15付近（東から）



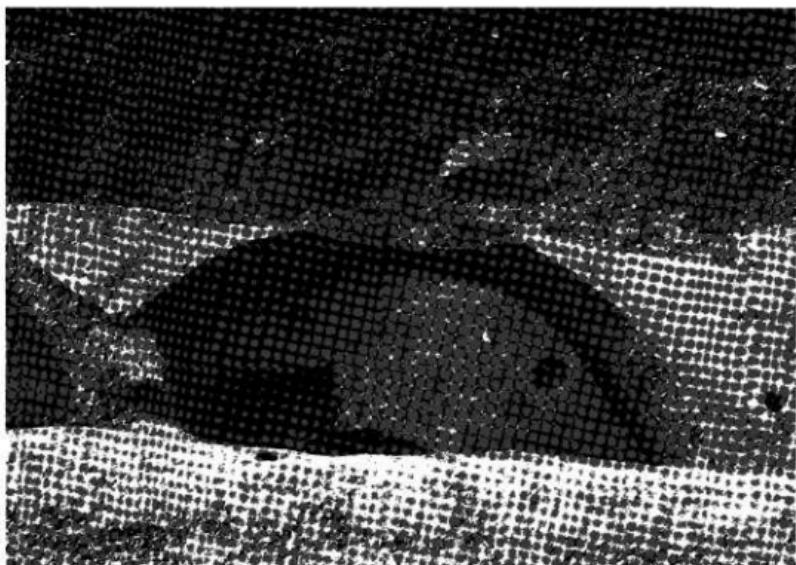
2. SZ-22・SB-18付近（西から）



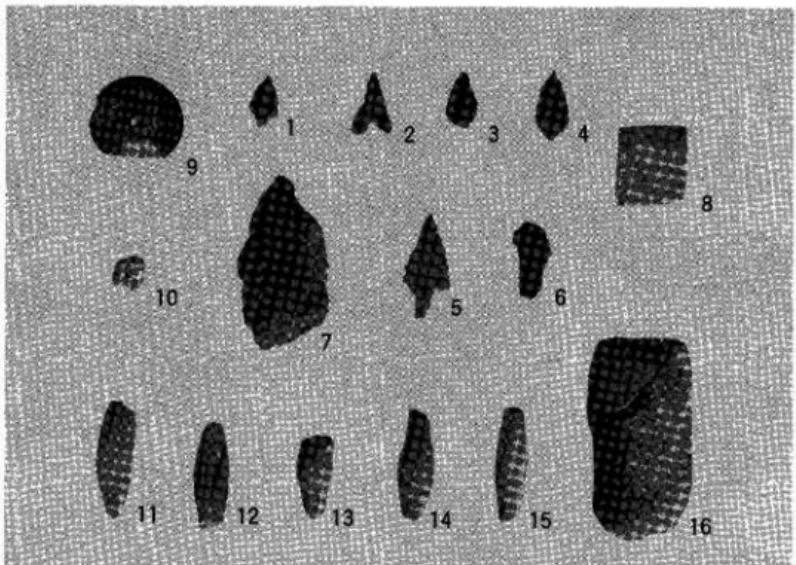
1. SB-19付近（西から）



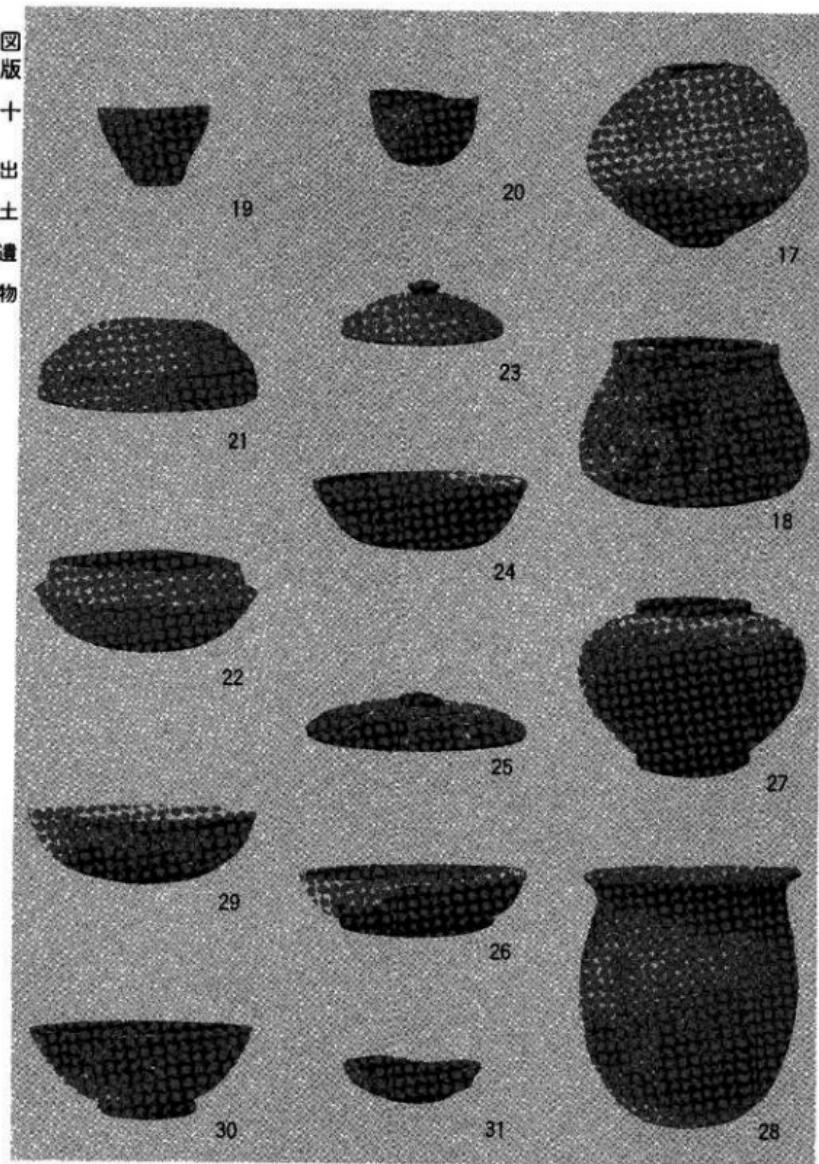
2. SZ-22土器出土状態（南から）



1. SB-19



2. 出土遺物



下富安遺跡発掘調査概報

昭和52年3月31日発行

発行 杜團法人 和歌山県文化財研究会

印刷 邦上印刷